

善く生きるために

2022年は大国による小国への軍事進攻、感染症との共生、先の見えない経済動向など、私たちの不安を増長させる現象が続いています。そのような日々を送る中で、人とのつながりや温かさを感じた時、「この世界はそう捨てものじゃない」と言いたくなります。人の善意の発露は何をきっかけに起こるのか。また善行を突き動す原動力は何なのか。不透明な時代だからこそ、皆様とご一緒に考えてまいりたいテーマです。今年度も精一杯努めて参ります。是非ご参加ください。(仲野好重)

①「私は知らない」という自覚からの出発 7月3日(日)

ソクラテスは「無知の知」、すなわち不知の自覚の重要性を説いた。それ以来、2,500年近くの年月が経過したが、21世紀に入った現在もこの重要性が、人間の魂に十分に浸潤したとは言いがたい。否、むしろ逆行しているのである。自分は知っている、十分に知っているの不遜な態度で生きることを助長された生き物の群れが世界を席巻している。

② 感染症という不条理に向き合うこと 9月4日(日)

世界が抱え込んでいる不条理に、私たちはどう向き合うのか。感染症を契機に、建て前は錆びつき、その色褪せた表面は剥がされていく。一方で密やかに、無言のうちに囁かれていた本音が顔を出し始め、これこそが感染症の本当の恐ろしさだと人は気づき始める。終わりのない戦い・・・、それがウイルスとの格闘であり、不条理の中でもがく私たちの善が試される資格試験。人間であることの。

③ 状況依存の中で揺れる責任と判断 11月6日(日)

21世紀に入って四分の一近くを過ごしてきた人類。今や状況をじっくり観察し、それにあった判断を下すことが求められている。一般的に通用すると思われる善の基準を当てはめることはもはやできない社会に変容している。相対的にうごめく道徳性価値に対峙しつつ、思考し続けることが、人間の負う責任ではないのか。それこそが、より良い判断に必要な不可欠な行為なのではないのか。

④ 思いやりと勇気の善行 2023年1月29日(日)

「怒」と「勇」の合わせ鏡を通して、日本における善のありかを探る。思いやりを持ち相手の立場に立って物事を見つめる怒の精神。そして、いかなる時も心の中にゆるぎない人生の軸を持ち続ける勇気。論語にも「見義不為 無勇也」(義を見て為さぬは勇なきなり)と記されている。自らの足元を見つめ直し、今一度立ち位置を確認する必要があるのではないのか。

講師 一般財団法人 人間塾 代表理事 仲野 好重 (なかの よしえ)

会場 人間塾 時間 13:30~15:30 定員 125名
(対面25名, オンライン100名)

受講料 会員 6,000円 (全4回) 会員以外 3,000円 (1回ごと)



イラスト：遊馬大空(人間塾第10期生)
デザイン：猿渡啓太(人間塾第9期生)

● アクセス

・JR 東京メトロ
四谷駅より 徒歩6分

・東京メトロ
麹町駅5番口より
徒歩2分



東京都千代田区二番町 12-13 セブネスビル 1階

お問合せ・お申し込みは下記のいずれかでお申し込みください。

TEL 03-6272-6147 E-mail office@ningenjuku.or.jp

FAX 03-6272-6148

E-mailでお申し込みの方は、①お名前、②ご住所、③お電話番号、④会員・非会員、⑤希望受講方法(対面またはオンライン)をご記入の上、お送り下さい。

FAXでお申し込みされる場合は、下記のフォームにご記入の上切り取らずにそのまま送信して下さい。

フリガナ

名前

受講方法
(先着順)

対面

オンライン

オンラインの場合
メールアドレス

携帯番号